

これまで(義務教育学校開校以前, 教育課程特例校)

特例教科の実施や乗り入れ指導, 5-2-2制による不必要な段差(中一ギャップ)の解消など, 教育活動の充実を図ってきたが……

《本校の課題》

- ・9カ年の連続性を強化した教育課程(特例教科指導の充実など)
- ・学習上の悩みを抱える子供への対応(「小4ビハインド」など)

- ・一貫教育の円滑な実施に必要な運営体制
- ・多様な異学年交流の充実
- ・子供の自己肯定(有用)感の涵養 など

《義務教育学校のメリットを生かす》

○これからの社会の変化を見据え, 子供たちが生きていくために必要な資質・能力の育成
(社会に開かれた教育課程, インクルーシブ教育システムの構築など)

授業改善の視点(義務教育学校の開校後)

授業のユニバーサルデザイン化(「授業のUD化」)

- ・「主体的な学び」を実現するために子供の様々な学習スタイルを包括できる授業づくり
- ・「対話的な学び」を進める上で表現に困難を持つ子供への配慮
- ・「深い学び」のための学習目標の焦点化 など

研究内容 ⇒ 具体的な研究活動

① 学級集団の状況を踏まえた教育課程の編成

⇒ ステージ制, 校務部会による教育活動の展開

② 地域・学校等の課題を解決するための学習活動の充実

⇒ 「授業のUD化」による身に付けさせたい資質・能力の育成

③ 地域の教育資源を生かした教育活動の展開

⇒ 特例教科, キャリア・地域(体験)活動の再構築